①　≪馬木八幡神社（旧称）亀山八幡宮（馬木五丁目）≫

護国の神・百姓の神として、文明中年（1469～87 年）の創祀と伝えられ、祭神は玉依昆売命（タマヨリヒメノミコト）・神武天皇の母）息長帯昆売命（オキナガタラシノヒメミコト・神功皇后）・品陀和気命（ホムタワケノミコト・応神天皇）の合祭です。

毛利家に篤く尊崇され、特に天正一五年（1587 年）二宮太郎右衛門が社殿を再建市したとある。又享年間（1716～36 年）社殿が改築。
昭和八年本殿・幣殿・拝殿を広島工業学校建築科の生徒が二年がかりで改築しました。

お宮の例祭は１０月第３日曜日です。

当八幡神社の森はシイの常緑広葉林が主体です。シイ林の多くは人々の手により破壊され、アカマツの二次林に置きかえられてしまい、本社叢のように昔の自然のまま今日に伝えるシイ林は大変貴重な存在となっています。

また、本社叢の南東斜面にかなり多くみられるシイモチは中国地方西部及び九州に分布する常緑高木で広島市より南の山口県下の沿岸部や島々のシイ林中に普通見られますが、広島市付近及びそれ以北ではほとんどみる事が出来ない極めて珍しい樹木です。そのため、この社叢は広島県天然記念物の指定を受けています。

②　≪元就寺屋敷跡付近　銅版製の由来記（馬木５丁目）≫

約４００年程前この辺りに元就寺なる大きなお寺があり、又この周囲も大層賑やかだったそうです。

慶長５年９月１５日、関ケ原の合戦で西軍であった毛利家は大敗し、長州に移され代って福島正則公が、安芸備後八群合わせ４２万６千石の領主として広島城に入城し、この付近も正則公の領地となりました。正則公が出された各所村々の寺院没収の令により、元就寺も廃寺となりました。

升本家の石垣には、その由来を記入した銅版製の看板が掲げてあります。

③　≪狸の夫婦岩（馬木六丁目）≫

この岩は夫婦者の狸が変身したとものといい伝えられています。

昔この近くに元城寺（ゲンジョウジ）というお寺があり、そこの天基上人が日夜ありがたいお経を読まれるので、温品や福田の人達までが、聴きに集っていましたが、それに混じって１組のたぬきの夫婦が、毎晩藤ケ丸山から通って来て熱心にお経を聴いていました。

ところが、狸夫婦はすっかり年をとり山から通って来ることが出来なくなり、何か恩返しはできないかと考えました。

当時元成寺の前を小川が温品へと流れていて、大雨の度毎に大水が温品の方へと流れ大水害を発生させていたため、狸夫婦はその川の出口で大きな岩に化身し、川の水が温品と福田の方へ二分して流れるようにしました。おかげで、村人は水害から免れることができたという伝説の岩です。

④　≪二宮太郎右衛門（信濃守就辰）屋敷跡付近（馬木４丁目）≫

屋敷跡の石垣は、１辺４０ｍと３０ｍ。角の石垣の高さは２，２ｍで園地及び馬場跡もあったようです。

二宮信濃守就辰は、毛利元就の６男（天分１８年（１５４９年）４月１８日生れ、慶長１２年（１６０７年）５月３日死去）で、訳あって家来の二宮家を相続しました。就辰は、毛利輝元が広島城を築城、あわせて城下町を建設したが、その一切を普請奉公として担当しました。また馬木村亀山八幡宮の再建、灌漑用地・水路･田地の開削・開発に尽力したと伝えられています。

二宮家は義父の時代に、山県郡から馬木村を本拠とするようになったと思われますが、いつ頃この屋敷跡に居を構えたかは、はっきりしていません。就辰の安芸における知行高は１万２５００石余でした。

毛利藩が慶長５年（１６００年）防長二国へ転封されると同時に、就辰も防州佐波郡佐波江へ移りました。